北海道価値創造パートナーシップ会議　ｉｎ網走 ～新たな北海道総合開発計画に向けて～
出席者の意見概要

【人材の育成・活用について】

- 地方の農村では、人材の確保が大変で、男性の定額常勤雇用は難しい。子育て期に社会と関わるきっかけをつかめなくなってしまった女性は少なくなく、そうした女性の活用を進めることが重要。人材はまだまだ眠っている。
- 「人こそ資源」は大切であるが、現在の小学校では、雪や道を始め、北海道の魅力や歴史、地理等が十分教えられておらず、「北海道人」としての意識が育っていない。子供たちに「北海道学」を教育できるようなカリキュラムや教材等の開発が望まれる。
- 都会出身の大学生も農業や水産のアルバイトを経験する中で、就職活動を突破できる人間力が身についていく。こうした学生たちが地域で就職できる場を作っていくことが重要。
- 社会人を育成する人材育成事業に対する政府支援の充実が望まれる。６次産業化についても、小さなビジネスの資金繰りからサポートしていくような仕組みが望まれる。
- 大学では学生も教員も外からの視点や人脈を持っており、もっと活用してほしい。特に学生は、限られたエリアで日常生活を済ませがちであり、地域づくりに積極的に関わるための機会、場づくりが望まれている。
- 起業・移住意欲のある若年層の支援が重要。
- 小さなビジネスを促進するためには、例えば廃校等を活用したインキュベート機能を持つ場が望まれる。それを大学と行政で連携して支援していくことが重要。

【地域資源について】

- 地域には磨けば光るダイヤモンドのような資源が眠っている。他者の視点の気づきが重要。流氷観光も、昭和 30 年代までは邪魔者以外の何ものでもなかった流氷の魅力が都会の人々に発見されて発展してきた。
- 例えば都会の女性など、明確なターゲットを設定しつつ、地域資源の洗いざらいの総点検が必要。地域の人たちが無価値だと思っていることでも、発想を転換してターゲットの視点から見ることによって、新たな価値の創造につながる。
- 地域の人々は保守的であることが多いため、粘り強く合意形成につなげていくことが重要。
- 地域資源の資源化・商品化から広告・販売、受入れ・おもてなしまで、これまでは大手観光業者が観光客の視点で行ってきた面が強い。これを地域の人々が地域に再投資・還元していくような取組が求められている。

【計画に関するその他のご意見】

- ６次産業化は、「地産地消」ではなく「地産他消」を目指して、全国の他地域や諸外国とのネットワークを構築していくことが重要。
- 「稼ぎ」を一時的にもたらすだけではなく、「稼ぎ」をもたらし続ける持続的な力が重要。
- 農業生産者と物流事業者や大消費地の商社等で持っている情報に大きなギャップがある。農産物が１年中あると思われている。デジタルだけでなくアナログな情報発信も重要。
- ユニバーサルデザインの観点から見ると、空港を一歩出た途端、移動が大変になるのが現状。誰が来ても楽しいまちづくりを進めることが重要。
- 昔の小学生向け社会科副読本では、北海道総合開発計画を始め、地域の話が教えられていたが、現在の教材にはそうした内容が含まれていない。また、教員向けのインフラに関する研修会も行われていた。北海道のことを学ぶ仕組みが大切。
- 北海道総合開発計画についても、人々に知ってもらうこと、知ってもらうための仕組みづくりが重要。